



奥村組は考えます。
建設とは、人の幸せをつくることなのだ。
戦争で喪失した大阪のシンボル「通天閣」の再建。
震災後、74日間で成し遂げた「JR六甲道駅」の復旧。
地域と地域を結ぶトンネルの開通。
地盤の被害を最小限に抑える免震技術の開発。
さまざまな場所で、人、暮らし、社会に貢献できる。
その喜びを実感できるから、建設の仕事には
魅力があります。夢や希望があります。

建設現場に、近道はありません。
そこにあるのは、地道という確かな道だけ。
その確かな道の先、奥村組は、愛と誇りを胸に、
まっすぐに、一歩一歩進んでいきます。

奥村組 とは

1907年(明治40年)の創業以来、
『堅実経営』と『誠実施工』
を信条とした経営理念を掲げる総合建設会社です。

奥村組 の特徴

1. 業界トップクラスの安定した財務基盤！
2. 「人」を成長させるための教育カリキュラム！
3. 社員の気持ちに寄り添う、福利厚生・待遇！

求む！地質屋さん！！

建設会社の地質屋さんとは？

地質コンサルタント会社が作成した調査・設計報告書の情報を理解し、構造物の施工に反映（良いものを無事故無災害で築造）します。調査・設計段階で想定されていなかった地質条件が出現した場合には、施工計画を見直し、対策工を施工へ反映！ **キミなら想定外にどう対処する！？**

建設会社の地質屋さんの配属先と業務内容は？

- ・技術研究所・・・地質調査、地質や土木に関する研究・開発、現場支援
- ・環境部門・・・地盤環境等に関する調査、研究・開発、現場支援
- ・現場職員・・・現場に常駐し、施工に直接関与（山岳トンネル現場など）

学生時代の専門性や入社後の経験を活かして各部署で活躍中！

幅広く仕事をするか、一つの現場でじっくり地質と向き合うか。 **キミの希望は！？**

建設分野のトレンド・課題とは？

最近ニュースで耳にする『ICT・DX・AI』は、建設分野においても取り組みが盛んになっており、今後益々需要が高まることが想定されます。また、地震や豪雨等の自然災害が増加・甚大化の傾向にあり、復旧工事や災害対策工事も必要になってきます。維持管理やリニューアルを必要とする老朽化した社会インフラも増加する見込みです。地質学的な知見だけでなく、最先端テクノロジー、物理探査、数値解析など、**学生時代に培った様々な知識を活かす場面が建設会社には沢山あります！**



奥村組と申します

— より多くの方々に、
奥村組を知っていただくために —



大阪国際女子マラソンに協賛しています

奥村組 といえば



代表取締役社長

奥村 太加典

創業者を曾祖父に持つ奥村太加典は、39歳で五代社長に就任（2001年12月）。創業者から受け継がれてきた「堅実経営」と「誠実施工」を信条に、社業の発展に情熱を注ぐ。

一方で、多種多様な趣味の一つにランニングがあり、それを日課としている。今は健康維持が目的だが、52歳の時には、フルマラソン3時間2分38秒の自己ベストを記録。

奥村組のパーパス 人と自然を、技術でむすぶ。

当社は、1907年の創業以来、「堅実経営」と「誠実施工」を信条に、事業を通じて社会に貢献することを使命としています。これからも技術の研鑽を積み重ねるとともに社会のニーズの変化に柔軟に対応しながら、土木・建築両事業に投資開発事業等を加えた総合インフラストラクチャー企業として、建設会社の枠を超え、人々の快適で安全・安心な暮らしと美しい自然を両立させた持続可能な社会の実現を目指し、着実に歩みを進めていきます。

ロゴマークの由来



奥村組のシンボルマークは「人」を象徴したものです。これは“人と自然を大切にし、未来づくりに貢献するヒューマン・コンストラクター”を目指すという私たちのこころを表現しています。



1907 (明治40年)	奥村太平が土木建築請負業を創業	 創業者 奥村 太平	2000 (平成12年) 2001 (平成13年)	世界初、灯台レンズ用免震装置を既設灯台に実装 「神流川」発電所新設工事(1期)のうち土木工事(水圧管路工区)にて、世界初、長大斜坑の全断面を一度にTBMで掘削し、貫通 (日建連表彰2022第3回土木賞受賞) 「ハニカムセグメントを用いた同時施工法」が第3回国土技術開発賞最優秀賞を受賞(国土交通大臣表彰)
1913 (大正2年) 1921 (大正10年) 1929 (昭和4年) 1932 (昭和7年)	南薩鉄道・加世田本線第3工区(鹿児島県)、主任として従事 奥村組発足 復興局 三吉橋新設工事(関東大震災復旧工事)を受注 大阪電気軌道(近畿日本鉄道の前身)・鶴橋駅付近高架橋工事を受注		2002 (平成14年) 2004 (平成16年)	宝塚造形芸術大学・大学院梅田サテライト教室工事を受注 首都高速中央環状新宿線 SJ51工区～SJ53工区(内回り)トンネル工事を受注 超高層免震マンション(高さ161m) シティタワーグラン天王寺工事を受注
1938 (昭和13年) 1944 (昭和19年) 1955 (昭和30年) 1961 (昭和36年) 1962 (昭和37年) 1965 (昭和40年)	株式会社奥村組を創立 日本製鐵・戸畑電接管工場工事を受注 通天閣工事を受注 東海道新幹線・切山ずい道工事を受注 奈良県庁舎工事を受注(1966年に第7回BCS賞受賞)		2007 (平成19年) 2011 (平成23年)	創業100周年 台北地下鉄空港線CU02A工事(台湾)を受注 2011年、台湾公共工事の最高栄誉「金質奨励優奨」を受賞 岩手県山田町災害廃棄物処理業務 (東日本大震災復旧・復興の初段工事)を受託 北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅工事を受注
1968 (昭和43年) 1974 (昭和49年) 1981 (昭和56年) 1982 (昭和57年) 1986 (昭和61年) 1987 (昭和62年)	日本初、泥水式シールド工法「OCMS工法」(Okumura Circulation Mechanical Shield)を開発 万国博ホール(EXPO HALL)工事を受注 津軽海峡青函ずい道(白符)工事を受注 大塚製薬徳島研究所Hi-Zタワー工事を受注 バタンアイダム工事(マレーシア)を受注 日本初の実用免震ビル・技術研究所管理棟竣工 日本初の免震マンション工事を受注		2012 (平成24年) 2013 (平成25年) 2016 (平成28年) 2017 (平成29年) 2020 (令和2年)	新名神高速道路東畦野トンネル工事を受注 東京オリンピック・武蔵野の森総合スポーツ施設メインアリーナを受注 技術研究所管理棟竣工後30年目の免震実証実験を実施 大阪国際女子マラソン(2018～2021) 協賛契約を締結 技術研究所の施設整備 (実験施設の新設および大規模リニューアル)を完了 流山市立おおぐろの森中学校工事を受注。 2022年、「令和4年度 木材利用優良施設等コンクール」において内閣総理大臣賞を受賞
1992 (平成4年) 1993 (平成5年) 1995 (平成7年) 1995 (平成7年) 1996 (平成8年)	天王寺MIO(天王寺ターミナルビル)工事を受注 長野市オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ工事を受注 メルパルク長野(長野郵便貯金会館)工事を受注 JR六甲道駅復旧工事(阪神・淡路大震災復旧工事)を受注 世界初、国宝を守る免震展示ケースを開発し、奈良国立博物館に納入		2021 (令和3年) 2023 (令和5年) 2025 (令和7年)	大阪国際女子マラソン(2022～2027) 協賛契約を締結(6年延長) 産官学民の技術者の交流・連携拠点として東京丸の内に新オフィス「クロスインベーションセンター」を開設 「性能可変オイルダンパー (VOD®)」が「第26回日本免震構造協会賞 技術賞」を受賞

奥村組 HOT TOPICS

CM

企業メッセージ「建設が、好きだ。」を表現

TVCM制作

CMギャラリー（CM動画）はこちら
<https://www.okumuragumi.co.jp/movie/>



建設の仕事に向き合う姿勢や情熱、事業の強み、女性の活躍などを紹介するTVCMをオンエア中。ホームページのCMギャラリーでもご覧いただけます。ぜひアクセスしてみてください。

吉田正尚選手をCMに起用



「やるぞ」篇

奥村組の社員が作業着を、吉田選手がユニフォームを纏うことでみえざる「覚悟」「気持ち」「勇気」「チームを背負う誇り」。それが、大きな目標に立ち向かう彼らに「やるぞ」という想いを宿します。



「やれる」篇

奥村組の社員にも、吉田選手にも、共に苦難を乗り越え、喜びを分かち合う仲間がいる。そんな仲間との一体感が、「やれる」という自信を生みだします。

CAST



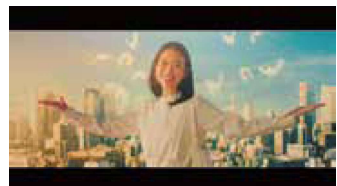
メジャーリーガー
吉田 正尚 選手

「奥村くみ」シリーズCM



「新3K+K」篇

舞台は大学キャンパス。建設業界のいまの常識「新3K+K」について奥村くみが学生に説明します。最後に「+K」の意味を聞かれたくみが、お得意の妄想で「KAKKOII!」を全力で表現します。



「KAKKOII」篇

とある高層ビルの展望デッキを訪れた学生と偶然にも鉢合わせた奥村くみは、建設業界がなぜカッコいいのかを熱く語ります。学生は最後に思わず、「カッコいい」とつぶやくのでした。

CAST



奥村くみ役
森川 葵 さん

コンセプトCM



「建設が、好きだ。」篇



「でっかい夢をつくろう。」篇



「私たちはチームだ。」篇



奥村組の強み「女性活躍」篇

奥村組 といえば

記憶に残る工事

～NHK総合テレビ
「プロジェクトX」で紹介～

通天閣再建

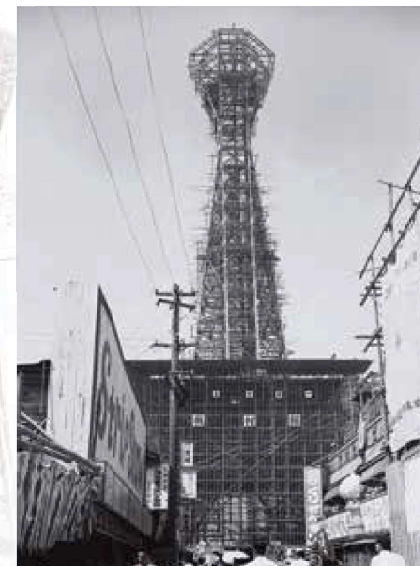
(2001年11月6日放送)

戦後復興の気運が高まる中、現存する大阪のシンボル「二代目通天閣」を建設(1956年竣工)。完成後10余年は経営にも参加。

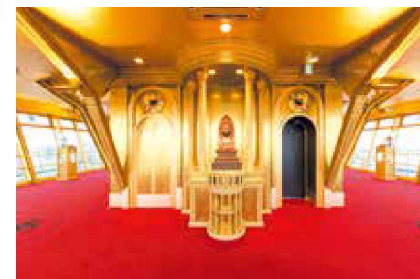
JR六甲道駅復旧

(2005年1月11日放送)

阪神・淡路大震災により壊滅的な被害を受けたJR神戸線(JR西日本 東海道・山陽線大阪～姫路間の愛称線区)において、本格復旧に2年かかるといわれた鉄道復旧工事のうち、一番被害が大きかった「JR六甲道駅」を担当。ジャッキアップ工法を駆使して、わずか74日間で工事を完遂し、早期の鉄道全線開通に大きく貢献(1995年竣工)。



二代目通天閣



通天閣リニューアル
(通天閣開業100周年記念事業)



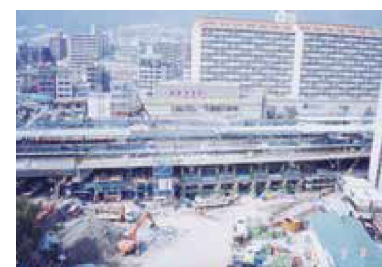
倒壊し1階コンコースがつぶれた状態の
JR六甲道駅



ジャッキアップ工法による復旧工事



復旧工事を応援する横断幕



高架橋の線路階をベントで仮受けして
柱復旧と同時にホーム上施設も施工



復旧工事完了後、1両100tの機関車が
2両編成で一団となって4線を並走する
総重量800tの載荷試験を実施

ちなみに

JR六甲道駅復旧工事を
題材にしたドラマ
「BRIDGE」

(2019年1月15日放送)

カンテレ開局60周年特別ドラマとして
フジテレビ系列全国ネットで放送され
ました。

協賛

大阪から世界に羽ばたく女性アスリートを応援
大阪国際女子マラソン

レースにける選手たちの姿と、私たちが仕事に取り組む姿勢が重なり共感できたこと、事業を通じた地元・大阪への貢献や女性活躍推進に力を入れていることから、2018年より「大阪国際女子マラソン」に協賛し、大阪から世界に羽ばたく女性アスリートを応援してきました。2027年までの協賛を決めており、10年にわたる協賛活動を通じて、私たちの想いや姿勢を示すとともに、大阪の街を盛り上げ、活躍する女性アスリートを応援し続けます。



産経新聞提供

協賛

文化事業も応援
J-WAVE TOKYO GUITAR JAMBOREE
supported by 奥村組

音楽の力で日本に勇気と活力を与えたいという熱い想いに共感し、両国国技館において毎年開催されるギター弾き語りフェス「J-WAVE TOKYO GUITAR JAMBOREE」に2020年から協賛しています。私たちはスポーツ事業だけでなく文化事業も応援し、地域・社会を盛り上げ、豊かな生活文化に貢献していきます。



奥村組 といえば

高いシールド技術

～開発×施工で実績を積み重ねる～

シールド工法は、トンネルを短期間で安全かつ経済的に施工することができ、騒音対策や環境保全にも寄与します。当社は1965年に日本初の泥水式シールド工法「OCMS工法」を開発。この発明が称えられ、1971年に開発に携わった役職員が紫綬褒章を受章しました。また、長い歳月を費やし開発した、シールドマシンの掘進と同時にセグメントの組み立てを可能とする「ハニカムセグメントを用いた同時施工法」は、従来の2倍の急速施工を実現し、2001年には国土交通省「国土技術開発賞最優秀賞」を受賞しました。



ハニカムセグメント

シールド工事に ICT技術を活用

～シールド掘進にAIを活用～

地盤条件、シールドマシンの癖(クセ)などを含む掘進時のさまざまなデータを学習したAI(人工知能)により、シールドマシンの掘進方向の予測と操作シミュレーションを行う「AI方向予測システム」を開発。熟練の掘進管理者による場合と同等の高い精度でのトンネル構築を可能とします。

シールド工法におけるAIを用いた方向予測の動画はこちら
<https://www.youtube.com/watch?v=6MfUKwa1vig&t=3s>



～最新技術で見えない地中を可視化～

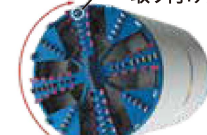
シールド面板に取り付けたセンサーを用いて、掘削断面内の地盤構成を連続的に把握できる「切羽可視化システム」を開発。本システムにより地盤の変化を把握することで、より適切な掘進管理を可能とします。

技術の詳細はこちら
<https://www.okumuragumi.co.jp/technology/engineering/pdf/s15.pdf>



地盤判定画面

センサーが読み取った地盤構成
シールド面板に取り付けたセンサー



グループ会社でシールドマシンを製作 奥村組のシールド技術を支える「奥村機械製作」

奥村組のみならず、国内外の他社工事に使用するシールドマシンやスチールセグメントも製造。土木工事用設備、各種搬送設備、基礎工事用機械、免震装置などの製造も手掛ける。

奥村機械製作株式会社

本社・工場：〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3丁目5-26 TEL:06-6472-3461 FAX:06-6477-6801
<https://www.okumura-kikai.com/>



泥土圧シールドマシン

奥村組 といえば

免震のパイオニア

日本初の実用免震ビル

「技術研究所管理棟」

当社が設計・施工した奥村組技術研究所の管理棟(茨城県つくば市)は、1985年に実用建物として日本で初めて免震構造評定を取得、1986年に竣工しました。建物そのものを人為的に揺らす「自由振動実験」の設備を備えた免震技術の実証実験施設として、35年以上にわたって免震装置の経年変化や地震履歴による性能への影響など、免震技術に関するさまざまなデータを蓄積しています。

自由振動実験の動画はこちら

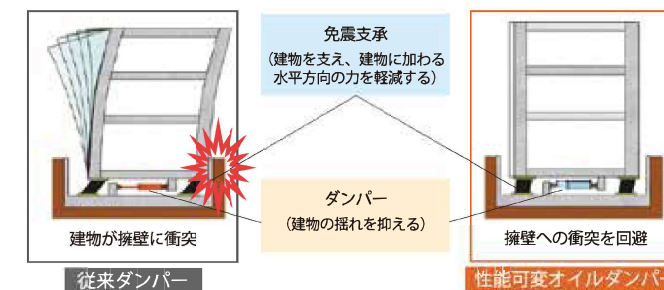
<https://www.menshin-okumura.com/channel/>



技術研究所管理棟

「性能可変オイルダンパー」を開発・適用

免震建物は、地震時に建物が地面と異なる動きをするため、建物の周囲にクリアランス(隙間)を設けていますが、巨大地震時に想定を超える周期の長い揺れが発生し、地震の揺れと建物が共振すると、建物と擁壁の衝突や免震部材損傷のおそれがあります。そこで、建物の変位の増大に応じて減衰力(地震エネルギーを吸収して揺れを小さくする力)が切り替わる「性能可変オイルダンパー(VOD®)」を開発しました。これにより、巨大地震時には減衰力が増加して擁壁への衝突を回避できます。VOD®の開発や、当社名古屋支店への適用が評価され、この度「第26回日本免震構造協会賞 技術賞」を受賞しました。



巨大地震に伴う長周期地震動発生時における性能可変オイルダンパーの効果



名古屋支店に設置した VOD®

技術の詳細はこちら

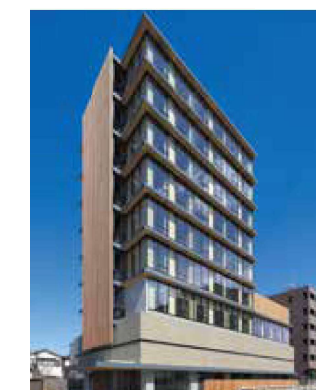
<https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2024/post-52.html>



設計×施工の確かな実績

設計から施工まで一貫したモノづくりで、お客様のニーズに応える建物を提供してきました。当社の誇る設計力と施工力の相乗効果で、より一層お客様にご満足いただける高品質な“作品”をつくり上げます。

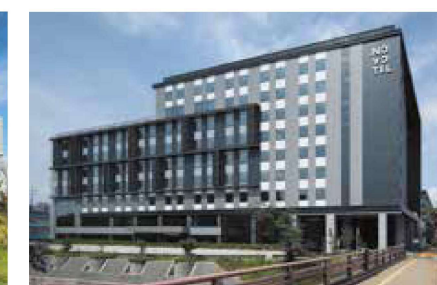
奥村組の施工実績／設計作品集はこちら
<https://www.okumuragumi.co.jp/works/>



【奥村組西川口寮】
用途：寄宿舎
規模：地上8階
構造：木造ハイブリッド構造



【大真空本社工場棟】
Archi Design Award
Golden 他建築賞受賞
用途：事務所
規模：地上5階
構造：鉄骨造

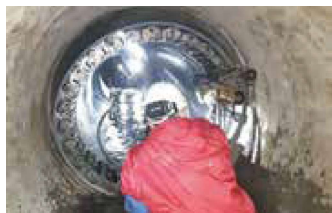


【ノボテル奈良】
用途：ホテル
規模：地上9階
構造：鉄骨造



奥村組 といえば

PPP/PFI(官民連携事業)への取り組み 下水道分野における包括的管理業務の受託



SPR工法による管路更新工事

当社は、下水道管路の調査・点検と改築工事に主眼を置いた「柏市公共下水道管路施設包括的予防保全型維持管理業務」と「いわき市下水道管路施設包括的管理業務」において、下水道分野でトップクラスの実績を持つ企業等とそれぞれ共同企業体を組成し、統括管理業務を担当しています。今後は下水道分野だけでなく、高度経済成長期に集中整備され老朽化が深刻な道路、公園、河川等のさまざまな分野における官民連携事業の取り組みを進め、公共インフラの維持管理、更新に貢献します。

不動産事業の拡大

企業保有不動産の利活用 ～全国6棟の社宅を改修し、 賃貸住宅として再生・収益化～

当社が所有する全国6棟の社宅を改修し、再生・収益化するプロジェクトに、リノベる株式会社を事業パートナーとして選定し、同社とともに取り組みました。

改修した社宅の賃貸マンションブランド名を“OC RESIDENCE R”として賃貸し、長期的に安定した収益を確保します。

また、「OC RESIDENCE R NISHINOMIYA OGO」については、積水化学工業株式会社を加えた3社でZEH水準のリノベーションを実施し、新築住宅で義務化される基準と同等以上の省エネ性能を持つ住居に再生しました。

今後も建物を再生、長寿命化、性能向上させることで、良質な住宅ストックが循環する循環型住宅マーケットを創造します。



全国に6棟ある「OC RESIDENCE R」

新規事業領域への参入

夏秋いちご事業・陸上養殖事業への参入

第一次産業の推進、地方創生への貢献を目指す

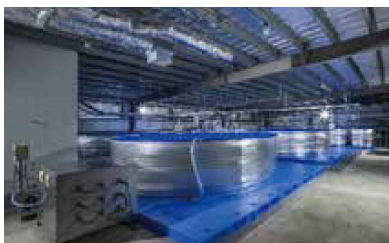
農業分野において、小諸倉庫株式会社と事業会社「株式会社軽井沢いちご工房」を設立し、夏秋いちご(夏秋期に収穫・出荷するいちごの総称)「サマールージュ」の栽培・出荷・販売事業に取り組んでいます。

また、水産業分野では、環境負荷が少ない上に、場所が限定されない特長を持つ閉鎖循環式陸上養殖事業への参入を目指し、茨城県つくば市の奥村組技術研究所内に陸上養殖実験棟を建設し、陸上養殖技術に関する実証実験を行っています。

第一次産業への参画を通じて新たな知見を得るとともに、地域ブランドの構築などによる「地方創生」の実現を目指しています。



サマールージュ



陸上養殖実験棟の内部

クロスイノベーションセンター

人と技術の未来創造拠点「クロスイノベーションセンター」

産官学民の技術者等との分野を超えた交流・連携の拠点として、2023年10月、東京丸の内に新オフィス「クロスイノベーションセンター」(通称:クロスアイ)を開設しました。"人と技術の未来創造拠点"をコンセプトに、多様な人材が集い、交流・技術連携・知識融合することによるイノベーションを促進するとともに、先進的で多様な働き方を試し、誰もが働きやすく、持てる能力を最大限に発揮できる職場環境の実現を目指します。

奥村組クロスイノベーションセンターウェブサイトはこちら
<https://www.okumuragumi-xi.jp/>



技術研究所

奥村組の技術を支える「技術研究所」

技術研究所では、室内の快適性に関わるさまざまな要素を総合的に検証することができる「室内環境実験棟」や、長周期振動台を導入した「耐震実験棟」などの研究施設において、社会の持続的発展に貢献する技術の研究・開発を行っています。

2020年には、省エネ・創エネ技術への取り組みの一環として、「管理棟」をZEB化改修し、供用を開始しました。この改修により、同建物はBELS評価においてNearly ZEBの認証を取得し、奥村組はZEBリーディング・オーナーとして認定されました。また、運用段階における省エネルギー効果も検証しており、年間のエネルギー消費量は、基準建物に対して84%減となり、設計値(76%減)を上回る成果を得られました。同建物の設計や運用で得られた知見を活かし、ZEBリーディング・オーナーとして、建物の省エネルギー化やZEBの普及を図り、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に貢献します。



奥村組技術研究所ページはこちら
<https://www.okumuragumi.co.jp/technology/tri/>



奥村記念館

奥村組の歴史と技術を紹介する「奥村記念館」

奥村組が2007年2月22日に創業100周年を迎えられたことに感謝の気持ちを込め、ゆかりの深い奈良の地に「奥村記念館」を開館し、無料開放しています。古都の景観に溶け込むデザインの建物内に、憩いの空間を設けるとともに、当社の歴史や、免震およびシールドトンネルをはじめとする当社の得意技術を紹介しています。また、当館は「免震」を採用しており、免震装置(実物)の設置状況を見学できるとともに、地震・免震体験装置で地震の揺れと免震効果の両方を体感していただけます。2025年3月6日には、来館者300万人を達成しました。

奥村記念館ウェブサイトはこちら
<https://www.okumuragumi.co.jp/kinenkan/>



外観



本社: 大阪市阿倍野区松崎町2-2 TEL.06(6621)1101
東京本社: 東京都港区芝5-6-1 TEL.03(3454)8111

<https://www.okumuragumi.co.jp>

